

<2019年度 ハローオリンピック事業>  
**オリンピック教室**  
実施報告書

千葉県 市原市立ちほら台西中学校





## 「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実施内容

■期 日 : 2019年5月14日 (火)

■ク ラ ス : 2年1組 (31名) 、2年2組 (30名)

■オリンピアン : 中村 知春 先生 (ラグビーフットボール) 【出場オリンピック/リオデジャネイロ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、運動と座学の2時間を通じてオリンピックやオリンピックバリューについて学んでいく、と授業の目的を確認。  
東京2020大会も迫る中、自分達が生まれた国でオリンピックが開催されることは本当に素晴らしいことだと思うので、オリンピックをより身近に感じてほしい、と伝える。
- ・簡単な準備運動の後、タグ取り、パス練習を実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・ルールを説明した後、6班対抗でタグラグビー(1試合2分間)を実施。
- ・ゲームをはじめる前に、ラグビーのパスは必ず横か後方に投げるよう再度確認。
- ・試合中、中村先生から「味方へのパスは後ろに、ボールを持ったら前に走ることを意識して」等とアドバイスを送る。

## 4. まとめ



- ・3つのオリンピックバリューについて、「エクセレンス=素晴らしい、卓越している」「フレンドシップ=友達と育むのもの」「リスペクト=尊敬」とそれぞれの意味を説明し、次の座学の時間は、自身の経験を通して、より詳しく学んでいく、と予告し授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・自身の経験を踏まえて、オリンピックについて考えたいと授業の目的を確認し、映像を見せながら7人制ラグビーフットボールのルールについて解説。
- ・オリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす、一生懸命頑張る、全力で取り組む、あきらめない、努力する」、「フレンドシップ＝友情、チームワーク、協力、仲間」、「リスペクト＝敬意／尊重、感謝、思いやり、フェアプレー、ルールを守る」と説明し、自身の経験を通じたエピソードやリオデジャネイロ大会でオリンピックバリューが感じられた場面を紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問(1組)：体育祭に向けて目標「粉骨砕身」を体現するために何ができるか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発問(2組)：体育祭に向けて目標「We do our best」を体現するために何ができるか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：練習から全力で取り組む、最後まで諦めない、挑戦する、手を抜かない、相手に届く声で応援する(エクセレンス)、誰かが困っていたら助ける、手伝う、仲間を信じる、愛を持って仲間と接する、全員で楽しむ(フレンドシップ)、規則をもう一度確認する、チームの活躍に感謝、仲間の良いところをマネする、相手を認める(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではない。人間として大切にすべき価値を磨いていくことで、皆にとっても大きな夢を実現できる。
- ・これからの人生でさまざまな勝負に直面する機会があると思うが、結果的に勝つことができれば一番良いが、実際は負けることが多い。勝った時はその一瞬で通りすぎてしまうが、負けた時にこそ学ぶべきことが多い。皆には「負けに価値を見出せる人間になってほしい」と伝え授業終了。

# 実 施 内 容

■期 日 : 2019年5月15日 (水)

■ク ラ ス : 2年3組 (31名)、2年4組 (31名)

■オリンピアン : 村上 睦子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日は皆と楽しみながらオリンピックについて学んでいく、と授業の目的を説明。
- ・運動の時間は、「エクセレンス=ルールを守り、どんなことも全力で取り組むこと」、「フレンドシップ=友達を思いやり、声を掛け合って協力する」、「リスペクト=皆でアイデアを出し合ってチームで工夫し、チャレンジする」を意識してほしいと伝えた。
- ・バスケットボールを使用したウォーミングアップの後、ドリブル、シュート、パス練習を実施。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・6班に分かれてシュート競争を実施。(全2回)
- ・1回目終了後、各班の得点を発表し、さらに得点を伸ばすための作戦を話し合った後2回目を実施。

## 4. まとめ



- ・諦めずにチャレンジする姿勢が良かったと称えた後、運動の時間を通してオリンピックバリューが深く関わっていたと思うので、授業の内容を忘れずに次の座学を受けてほしいと伝え、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・座学の時間は、さらにオリンピックについて考えていきたいと、授業の目的を確認。
- ・オリンピックバリューについて「エクセレンス＝卓越、より優れている、素晴らしい」、「フレンドシップ＝友情、チームワーク、仲間とのコミュニケーション」、「リスペクト＝敬意／尊重、フェアプレー、環境への配慮、感謝、ルールを守る」と説明し、自身の経験を踏まえたエピソードを紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：体育祭でどのような目標を達成したいか、どのようにすれば目標を達成できるかオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：何事にも最後まで全力でやる、諦めない、チャレンジ精神、失敗を恐れず挑戦する、本番を楽しむ(エクセレンス)、ポジティブになる、声かけをし、心を一にする、声を掛け合う、辛い時こそ笑顔で励まし合う(フレンドシップ)、支えてくれる人への感謝、他のチームに敬意を持つ、全員が全力で取り組める環境を作る、結果にとらわれない(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にも見出すことができる。オリンピックバリューを意識しながら行動し、前向きに考えることで、見える世界も変わってくる。東京2020大会では、千葉県でレスリング、フェンシング、テコンドー、サーフィン等の競技が開催される。皆も様々な形で関わることができるため、オリンピック教室で学んだことを基にどのような関わり方ができるか考えてほしいと伝え、授業終了が。

■ 集合写真  
2年1組



2年2組



■ 集合写真  
2年3組



2年4組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



■ 修了書贈呈

